

平成6年度東京同窓会総会出席者（敬称略）

平成6年10月7日

旧制8期 高原英夫 9期 草皆英二郎 13期
勝永金一 14期 村木良二 16期 熊谷洋三
近藤 誠 17期 岩森榮助 梅田恭三 佐藤
功 高橋義三 深井昭信 18期 塩谷昭三郎
19期 小林 肇 佐藤達郎 田口晋三 千葉孝
夫 八木喜徳郎 吉方盛恭
新制1期 大塚哲郎 鈴木良夫 3期 伊藤康
孝 江坂昭夫 八杉和男 4期 草階郷甫 土
井啓有 村井克白 5期 宮腰孝一 6期 小
山黎子 田久保光一 蓮沼 旬 7期 岡部
忠 工藤尊久 栗原俊一 田中一男 畠 豊彦
8期 岩見尚夫 金子秀雄 北村祐三 佐々木
高博 佐藤五郎 杉崎孝雄 豊田 護 堀 良
三 松橋重美 諸沢鈴男 八柳昭義 9期 原
稔 平川文雄 10期 大久保征輝 古内 仰
松島 茂 松野 肅 三浦義輝 11期 赤塚鉄
男 石川正順 大高ゆきお 太田勝治 笹木廣
澄 嶋田雄右 清水武久 鈴木元紀 宮腰瑞夫
12期 小島セイ 佐々木哲也 13期 馬場富男
14期 磯部 博 高田政勝 森田 弘 15期
武田 功 矢木信章 19期 小野津世子 高橋
ヒサ子 若狭秀己 21期 菅原 涉 22期 智
田 農 23期 小河範也 25期 小林 彰 佐
藤悌弘 須藤正喜 高橋敦子 渡辺博栄 26期
橋本周平 庄内俊憲 37期 川上長人 44期
大島忠勉 小野 毅 相馬 希 45期 宮腰祐
渡辺洋平

以上89名

新卒出席者（新制46期）

池内秀太 池田孝樹 池端妥希 池端真理 板
沢重博 伊藤あかね 大山剛勸 加藤善光 金
平喜美仁 木村裕美 児玉高幸 小林美喜子
佐藤洋枝 嶋田博和 高橋大介 戸澤貴洋 野
呂和代 畠 讓 半田秀人 藤原裕臣 堀内香
織 本間太作 八木恭子 八代真啓 山内亮太
渡辺由香

以上26名

招待出席者

講演講師 関根市男氏（新制11期）
恩師 草邇幸太郎先生 加賀正隆先生
同窓会副会長 続 隆氏（新制3期）
母校関係 鈴木 進教頭 佐藤真孝先生
宮腰玳朔先生 京 久夫先生

参議院議員

参議院議員 佐々木満氏（旧制15期）
能代市長 小野清子氏
東京事務所長 宮腰洋逸氏（新制5期）
能代北高 佐藤次郎氏
能代工高 石渡澄子氏 松村妙子氏
鈴木博之氏 藤本勝久氏 石田
哲章氏

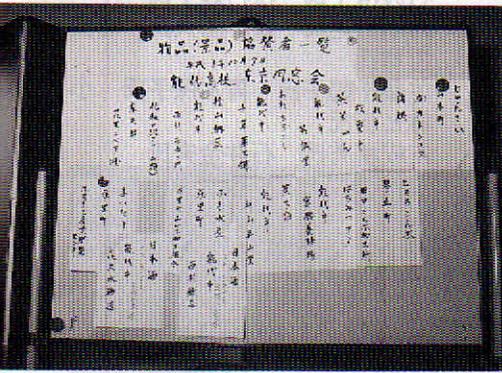
能代商高

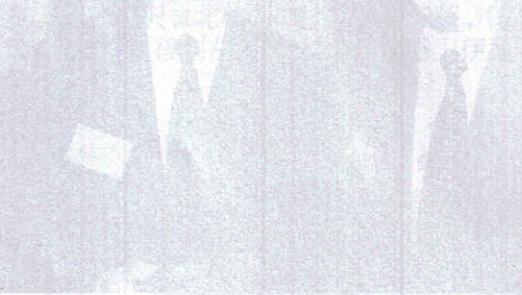
佐藤千鶴子氏 青木保子氏 小
林ヒデ氏
能代西高 友成穂秀氏 石井金夫氏
鷹巣農林高校 茂内 勉氏 小西鉄男氏

以上22名

出席者合計 137名









旧制 17 期同期会 (平成6年9月15日・能代にて)



(前列左より)伊勢, 相沢, 続同窓会副会長, 小野寺校長, 岩森, 谷内, 松森, 小川(浩), (中列左より)岩沢, 北林(旧姓北川), 工藤, 国松, 小川(清), 五十嵐, 越後(旧姓深谷), 平山, 安濃, 平川, (後列左より)淡路, 金谷, 伊藤, 小坂, 小西, 菱川, 梅田, 小林, 金田, 佐藤, 浅田

新制 7 期同期新年会

(平成7年1月20日・湯河原ロイヤルハイツ)



お見苦しい格好で失礼します

能代高校東京同窓会収支決算報告書

自平成5年10月1日～至平成6年9月30日

収入		支出	
前期繰越金	667,589	総会会場費	633,004
総会会費	923,000	総会諸経費	375,892
5年度年会費	187,460	印刷代	423,000
名簿広告代	150,000	郵送料・送料	189,866
寄付金	862,000	広告料()	41,921
預金利息	1,895	交際費()	60,000
		慶弔費()	41,956
		事務経費	10,000
		次期繰越分	1,016,305
合計	2,791,944	合計	2,791,944

上記の通り相違無いことを承認し、ご報告申し上げます。

平成6年9月30日

会計監事 村井克自 印

平成6年度年会費納入者 (敬称略)

(旧1期から旧16期までは年会費免除です) 平成7年4月30日現在

- | | |
|---|--|
| 旧17 石川浩之 岩森榮助 梅田恭三 佐藤功
高橋義三 深井昭信 | 新9 石岡忠治 梅田政男 加賀義介 金沢裕
工藤嘉明 栗原優子 齊藤秀夫 七戸節雄 |
| 旧18 愛沢鉄治 潮田巖 塩谷昭二郎 高畑政
宏 長谷川良太郎 | 田中郁三 原稔 檜森寛 平川文雄 |
| 旧19 浅野元之助 日下部道夫 小林肇 佐藤
達郎 田口晋三 千葉孝夫 古内保 八木喜
徳郎 吉方盛恭 | 新10 大久保征輝 東海林郁三 須田正巳 古
内 仰 堀内盛 松島 茂 三浦隆志 三浦
義輝 宮腰達朗 若林莞爾 |
| 旧20 坂本逸郎 佐藤信一 東海林毅 高島隆 | 新11 赤塚鉄男 石川正順 太田勝治 笹木廣
澄 嶋田雄右 清水武久 鈴木元紀 宮腰瑞夫 |
| 新1 五十嵐嘉久彌 大塚哲郎 鈴木良夫 | 新12 小島セイ 佐々木 哲也 千田浩一 |
| 新2 小野喬 金谷兼雄 金谷芳郎 河田俊彦
佐藤真一 民谷慎一 | 新13 庄司政義 城野攻一 馬場富男 |
| 新3 伊藤康孝 梅田卓美 小野茂 金井惇
菊池弘吾 北川京二 保坂隆司 八杉和男
山谷正勝 | 新14 磯部博 越前谷明則 清水金美 高田政
勝 浜屋裕一 森喬夫 森田弘 山本敏 |
| 新4 石戸忠五郎 草階郷甫 田畑久雄 塚本
一也 富山昌俊 土井啓有 村井克自 安井
浩一 吉田博 | 新15 猿田祐造 清水靖子 武田功 播磨谷謙
哉 船山稔 矢木信章 |
| 新5 相澤裕雄 秋元孝治 大倉太助 設楽義
雄 清水良二 三田登 宮腰孝一 八杉弘行 | 新16 岸部達行 小松世和 斎藤彰悟 棚橋東峰 |
| 新6 越後陽一 金子勝信 河合雅子 木村喜
作 木村信逸 小山黎子 田久保光一 豊田
誠 蓮沼旬 畑江道弘 | 新17 佐々木正男 平澤正知 |
| 新7 岡部忠 小貫実 唐津光成 工藤尊久
栗原俊一 小山哲道 田中秀 田中一男 那
須秋男 畠豊彦 平川明三郎 | 新18 島津一斎 田村規清 |
| 新8 池内広之 板倉富彌 今立甲矢雄 岩見
尚夫 金子秀雄 北村祐三 佐々木高博 佐
藤五郎 塩山元久 神馬清史 杉崎孝雄 須
藤正 豊沢充美 豊田護 野呂文雄 畠山信
孝 馬場ノリ 原田力次 平川國一 堀良三
松橋重美 宮腰英彌 諸沢鈴男 八柳昭義
米森三次郎 | 新19 浅野讓 今野廣隆 小野津世子 加茂谷
純一 佐々木利枝 武田正 高橋ヒサ子 若
狭秀己 |
| | 新20 金野正道 佐藤隆 成田正廣 袴田忠夫
畑沢鉄三 平川隆康 |
| | 新21 大高正典 菅原涉 田村猛 |
| | 新22 智田農 |
| | 新23 小河範也 菊地茂 高畑仁 |
| | 新25 石塚信一 菊池忠夫 小林彰 近藤信雄
佐藤悌弘 須藤正喜 高橋敦子 渡辺博栄 |
| | 新26 庄内俊憲 橋本周平 |
| | 新31 鈴木裕美子 |
| | 新36 小原恵 |
| | 新37 川上長人 |

197名

上京以来三十数年、友人の中にはいまだに能代弁マル出
してしゃべる者もいる。しかし、本人もわれわれも、それ
を能代弁と思っているが、それは能代訛ではあつても、幼
・少年時に使つた能代方言とは、まるで違つたものになつ
ているであらう。

言葉は変化する。田舎にいても、地元の人同士の対話よ
りも、テレビなどから押し寄せる、いわゆる標準語を耳に
する機会のほうが圧倒的に多い。したがつて、方言にはい
つのまにか消滅してしまうものも少なくない。今のうちに
消えた方言、消えようとしている方言を発掘し保存なけれ
ばと、「読む方言辞典―秋田県能代・山本編―」を自費出
版された方がいる。

五千を超える能代・山本方言を収録 ローカル色あふれる方言会話・失われゆくアクセントも再現

元東能代中学校校長 工藤泰二さん 旧制三期

子供のころ、工藤さんは母方の実家のある能代市久喜沢地区へよく
遊びにいったが、そこではたびたび何をいつているのかわからない言
葉が使われることがあつた。子供心に感じる不思議さ、それがきつ
けとなつて方言に興味をもつた。

大正四年生まれの工藤さんは、旧制能代中学から秋田師範（秋田大
学教育学部の前身）へ進み、本科・専攻科を卒業、昭和九年から教職
に就いた。教職のかたわら能代山本國語教育研究会長を務め、昭和四
十九年東能代中学校校長で退職するまでの間、工藤さんの周辺で語ら
れる方言や、新しく出会つた方言などの意味や語源を調べては、メモ
を取り続けた。

工藤さんは、今年第四十三号が刊行された年刊詩集「たろつべ」の
誌名の名付け親でもある。「たろつべ」の命名にあつては、地方色
を出すためにと、会議では軒から下がる「つらら」の方言である「た
ろんべ」「たろつべ」など、いろいろな意見が出されたが、結局、語
呂も考へて「たろつべ」に決めたという。

退職後は、考古学の発掘調査のように、方言の一つひとつについて

考へてみたいと、語源と文法に視点をおいた研究に本格的に取り組ん
だ。長年かかつて収集した方言のメモを整理してはワープロに入力す
けた。一方、それまでに解明できなかった言葉の語源の解明に取り組み続
けた。

例えば「やんとら」の意味は七十年來の疑問だつたという。これは
久喜沢地区だけで使われる言葉かと思つていたが、峰浜村にも使う集
落があることを知つた。辞書をめくつてみるうちに、「らんとらば」
が目にとまり、読んでみると「墓場」の意味であつた。「らんとら」
は「卵塔」と書き、卵の形をした墓石で、禅僧の墓標などに用いられ
るのだという。「らんとらば」が「やんとらば」に、さらに「やんと
ら」と、「やんとら」と変化していつたものであらうと、工藤さんは
解説する。

この意味・語源を解明したときの感激は今でも忘れられないとい
うが、その後広辞苑に「やんとら」の形で載つていて「秋田・青森地方
で墓場のこと。やんとれ」とあるのを知つて、びつくりしたそうだ。
今年八十歳になる工藤さんが、『読む方言辞典』の出版を思い立つ
たのは三、四年前あたりで、「方言は、その言葉の中に汲みだしても尽き
ぬ滋味があり、そこに私たちの祖先のもの考へ方や生きざまを伺い
知ることが出来る。方言は、私たちに与えられた大きな文化遺産であ
り、このまま埋もれさせてはならないし、誤り伝えてもいけない」と
考へたからである。

ちようどそのころ、能代山本地方では、相次いで方言の本が出版さ
れていた。故戸松順蔵さんの「古山命脈」に始まり、琴丘町郷土史研
究会編「琴丘の方言」、山本町教育委員会発行の「山本の方言集」、
富波良一さんの「採録・能代弁」と続き、昨年は能代市中央公民館の
寿大学院が「能代の方言」を刊行した。

工藤さんはそれらで取り上げた言葉もできるだけ収録しながら、そ
の用例や解説を乗せている。

A5判、四九九ページの「読む方言辞典」には、五千を超える方言を
採録し、それにまつわる笑い話や詩歌なども載せているほか、付録と
して方言による会話集や、アクセントで意味の違う言葉や発音で意味
の違う言葉なども載せている。

価格は三千円で、能代市の一長堂書店で扱っている。

秋田県立能代高校東京同窓会会則

- 第 1 条 本会は秋田県立能代高等学校東京同窓会と称する。
- 第 2 条 本会は能代高等学校を卒業、又は在籍したことがあり、東京および東京近郊に居住する者は、全てその入会の資格を得るものとする。
- 第 3 条 本会は同窓生各位の親睦と相互の繁栄を図り、以て郷土の発展と母校の興隆に寄与するものとする。
- 第 4 条 本会は幹事を置く。但し、人数は制限しない。任期は定めない。
- 第 5 条 幹事の内より、会長1名・副会長若干名・会計若干名を置く。又、顧問を置くことができる。但し、任期は各々2年とし、留任は妨げない。
- 第 6 条 本会の運営に当たり、事務局を設ける。
- 第 7 条 本会の運営一切の事項については、幹事会に一任する。
- 第 8 条 本会は年1回総会を開催する。
- 第 9 条 本会運営費は、会員の納付した年会費、寄付金その他を以てこれに当てる。但し、年会費の金額に関しては、幹事会がこれを定めるものとする。
- 第 10 条 納付された運営費は返還しない。
- 第 11 条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり、9月末日を以て終わる。

附 則 本会則は昭和53年10月一部改正する。
本会則は平成3年6月一部改正する。

あ・と・が・き

「今年の夏は冷夏」との予報に反し、今年も連日猛暑が続く。この分では、今年も会報の発行は延期しようと、ズボラを決め込んでいたのですが、「会員諸兄姉との約束もある。今回はどうしても作ってもらわなければ困る」と、わざわざ八柳事務局長のお出ましがあったのが、先週末のこと。いったん延期と（自分かつてに）思いこむと再スタートはなかなかむずかしいものです。しまいこんだ総会の会場風景写真や、録音テープを引っ張り出して、ごちゃごちゃとやっております。

さて、毎回同じことを申し上げるのも気が利きませんが、この会報の主たる目的は年一度の東京同窓会の模様を報告すると同時に、総会に出席できなかった会員のみなさんに、せめて誌面を通じて連携・連帯感を味わって頂くことにあるかと思えます。とはいえ、何分力量ままならず、どこまでその趣旨に沿い得るかどうか……。

昨年の母校は、甲子園出場などといった晴れがましい特記事項もなく、やや盛り上がり欠けるところもありましたが、今年は、創立70周年ということで、いろいろな記念行事もあると聞いております。先週は軟式野球部の全国大会出場も決まりました。このような気運に便乗して、今年の東京同窓会は、より一層の盛り上がりをもって、当日だけでも、世にみなぎる不況風を一掃する場とするよう、会員諸兄姉のご協力を仰ぎたいと思っております。

まあ、それにしても暑いですね。何とかありませんか、渡辺さん。

㊤164 東京都中野区中央5丁目7番1号 株式会社 友和 内
秋田県立能代高等学校 東京同窓会 事務局 ☎03-3383-2111 (大代表)
編集:杉崎 孝雄 (新制8期)